

田子町橋梁長寿命化修繕計画

10箇年計画



令和6年4月



田 子 町

目 次

1. 橋梁長寿命化修繕計画策定の背景.....	1
2. 田子町橋梁アセットマネジメントの基本コンセプト	2
3. 田子町の橋梁を取巻く現状.....	3
3.1 橋梁の現況（橋梁数の内訳）	3
3.2 地理的特徴.....	4
4. 橋梁アセットマネジメントに基づく橋梁長寿命化修繕計画の基本フロー	5
5. 橋梁長寿命化修繕計画の策定.....	6
5.1 橋梁の維持管理体系.....	6
5.2 橋梁の維持管理.....	7
(1) 維持管理・点検.....	8
(2) 維持管理シナリオ.....	10
(3) 更新対象の選定.....	11
(4) 長寿命化シナリオの絞込み.....	11
(5) 健全度の将来予測とLCC算定.....	12
(6) 予算の平準化.....	13
(7) シナリオ別LCC算定結果.....	14
(8) 予算シミュレーション.....	15
(9) 更新・長寿命化対策工事リスト.....	17
6. 橋梁長寿命化修繕計画により見込まれるコスト縮減効果	18
7. 耐震補強計画.....	19
8. 洗堀対策計画.....	19
9. 費用の縮減に関する今後の取組.....	20
9.1 新技術の活用.....	20
9.2 集約化・撤去の検討.....	20
10. 事後評価.....	21
11. 橋梁長寿命化修繕計画策定に係る学識経験者の意見聴取	22

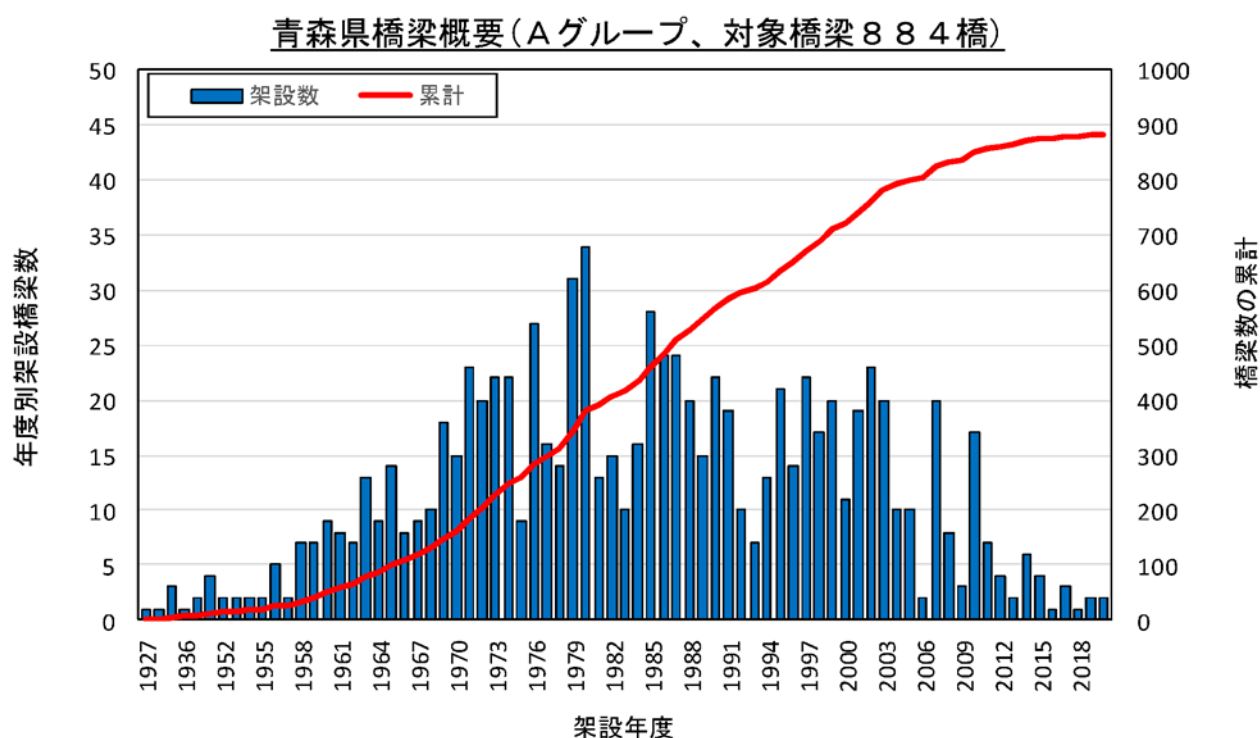
1. 橋梁長寿命化修繕計画策定の背景

近年、日本国内において高度経済成長期（１９５５年～１９７３年）に建設された橋梁が一斉に建設後５０年を迎えることとなり、橋梁の高齢化が懸念されています。したがって、今後橋梁補修・架替などの費用がこれまで以上に増大されることが予測され、従来通りの対策方法では、適切な維持管理を全ての橋梁において実施することは困難となることが予測されます。

そうした背景から、青森県では橋梁補修のコスト縮減および橋梁の延命化を図るため、平成１６年度より橋梁アセットマネジメントシステムを構築し、平成１８年３月には、橋長１５ｍ以上の橋梁を対象とした５箇年アクションプラン（平成１８年度～平成２２年度）を策定し、現在は平成２８年に策定した「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき事業を実施しています。今回５年に１回の定期点検の４巡目点検結果並びに平成１８年度～令和３年度の計画に基づいた１６年間の事業実施結果を受けて、新たに「橋梁長寿命化修繕計画」（１０箇年計画：令和４年度～令和１３年度）を策定したところです。

田子町が管理する橋梁においても、長期的な視点から橋梁を効果的・効率的に管理し、維持更新コストの最小化・平準化を図っていく取り組みとして【橋梁長寿命化修繕計画（１０箇年計画：令和６年度～令和１５年度）】を策定しました。

なお、本計画は現状の健全度・予測計画に基づいて策定したものであり、今後の点検結果並びに予算の推移によって変動が生じる可能性があります。



橋長 15m以上の橋梁供用年の分布
「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画 令和４年３月」より

2. 田子町橋梁アセットマネジメントの基本コンセプト

田子町の基本コンセプトは、青森県の基本コンセプトに則り橋梁アセットマネジメント¹を進めることとしました。

☆ 町民が安全安心な生活を確保するため、健全な道路ネットワークを維持します

これまで町民の生活を支え続けてきた多くの道路や橋梁などの老朽化が進行しており、近い将来に修繕・更新などに要する費用が膨大になるという問題が明らかとなりました。

この問題を解決しなければ、橋梁などの劣化・損傷が進み、道路ネットワークが機能しなくなり、町民の生活に支障をきたすことが想定されます。

田子町としては、来るべき大量更新時代に向けて、今後とも町民の安全・安心な生活を確保するため、健全な道路ネットワークを維持することに全力で取り組んでいきます。

☆ 全国に先駆けてアセットマネジメントを導入しました

青森県では若手社員のアイデアを積極的に取り入れ、大量更新時代に対応するべく、「アセットマネジメント」を全国に先駆けて導入しました。これに倣い、田子町も社会資本の新たな維持管理手法として「アセットマネジメント」を導入しました。

☆ これまでの維持管理の常識から転換します

これまでの維持管理は、「傷んでから直す又は作り替える」という対症療法的なものでしたが、これからは「傷む前に直して、できる限り長く使う」という予防保全的なものとし、将来にわたる維持更新コスト（ライフサイクルコスト：LCC）を最小化する方向に転換します。

☆ 社会資本の維持更新コストの大幅削減を実現します

「いつ、どの橋梁に、どのような対策が必要か」をアセットマネジメントによりの確に判断のうえ、橋梁の長寿命化を図り、将来にわたる維持更新コストの大幅な削減を実現します。

¹ アセットマネジメント：道路を資産としてとらえ、構造物全体の状態を定量的に把握・評価し、中長期的な予測を行うとともに、予算的制約の下で、いつどのような対策をどこに行うのが最適であるかを決定できる総合的なマネジメント [「道路構造物の今後の管理・更新等のあり方提言（平成 15 年 4 月）」国土交通省道路局 HP より]

3. 田子町の橋梁を取巻く現状

3.1 橋梁の現況（橋梁数の内訳）

田子町が管理している長寿命化計画策定対象橋梁は84橋あり、架設後50年経過した橋梁は15橋（18%）、10年後には22橋（26%）になり、このまま架け替えを行わなければ、20年後には63橋（75%）の橋梁が高齢化を迎えます。

対象橋梁の構造形式は鋼橋が27橋、コンクリート橋が56橋、木橋が1橋となっています。

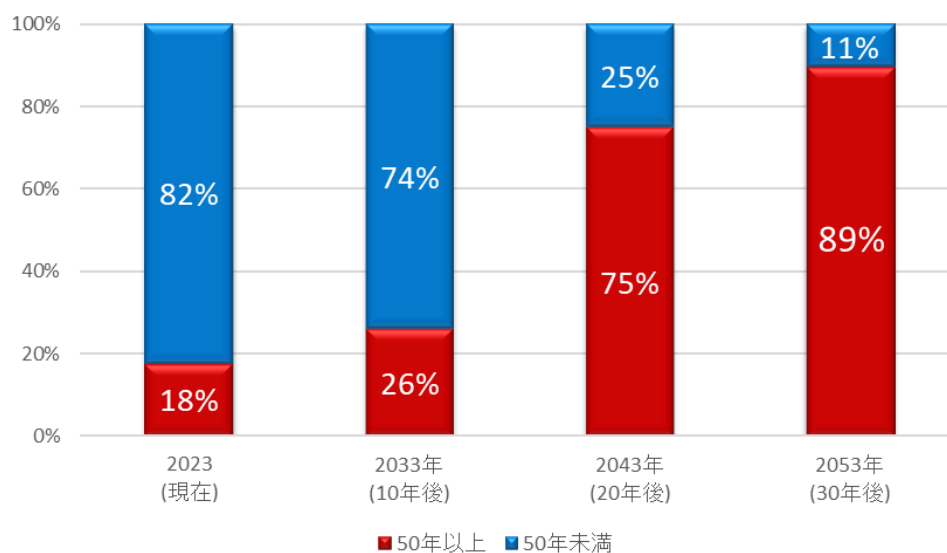


図 3-1 供用後 50 年以上の割合

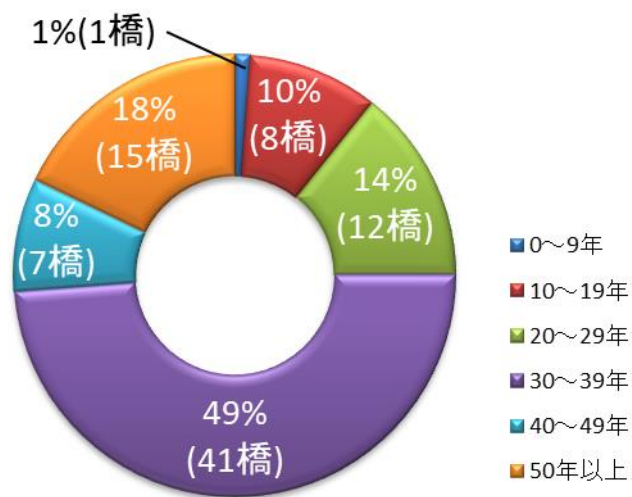


図 3-2 架設後経過年数別の割合

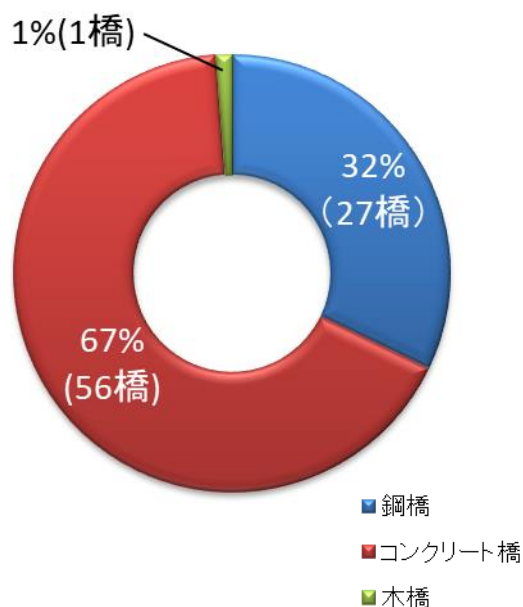


図 3-3 構造形式別の割合

3.2 地理的特徴

田子町は、青森県の最南部、岩手県と秋田県の県境に位置しています。八甲田山系を構成する山岳地帯に位置していることから、町の80%を山林が占めています。町の基幹産業は畑作を中心とした農業であり、特にニンニクは生産日本一を誇っています。

気候的には、山岳地帯特有の冷涼な気候であり、一日の中でも寒暖の差が激しい地域です。一年を通して、夏と冬の気温差も激しく、気温が氷点下を下回ることから凍結融解の繰り返しによる凍害¹の損傷が懸念されます。降雪量も多く、冬季の積雪・凍結があることから融雪剤の散布が行われており、塩害²を受ける可能性もあります。

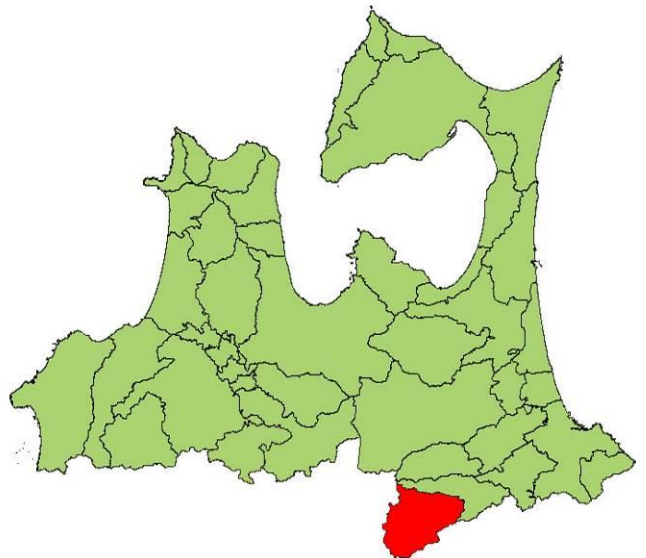


図 3-4 田子町概況図



塩害:海からの飛来塩分で、コンクリート構造物内部のPCケーブルが腐食し、膨張したことによる、主桁下面への大きなひび割れが確認される。



凍害:冬期間の凍結融解作用で、主桁下面のかぶりコンクリートがはく離し、一部鉄筋が露出しているのが確認される。

「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画 令和4年3月」より

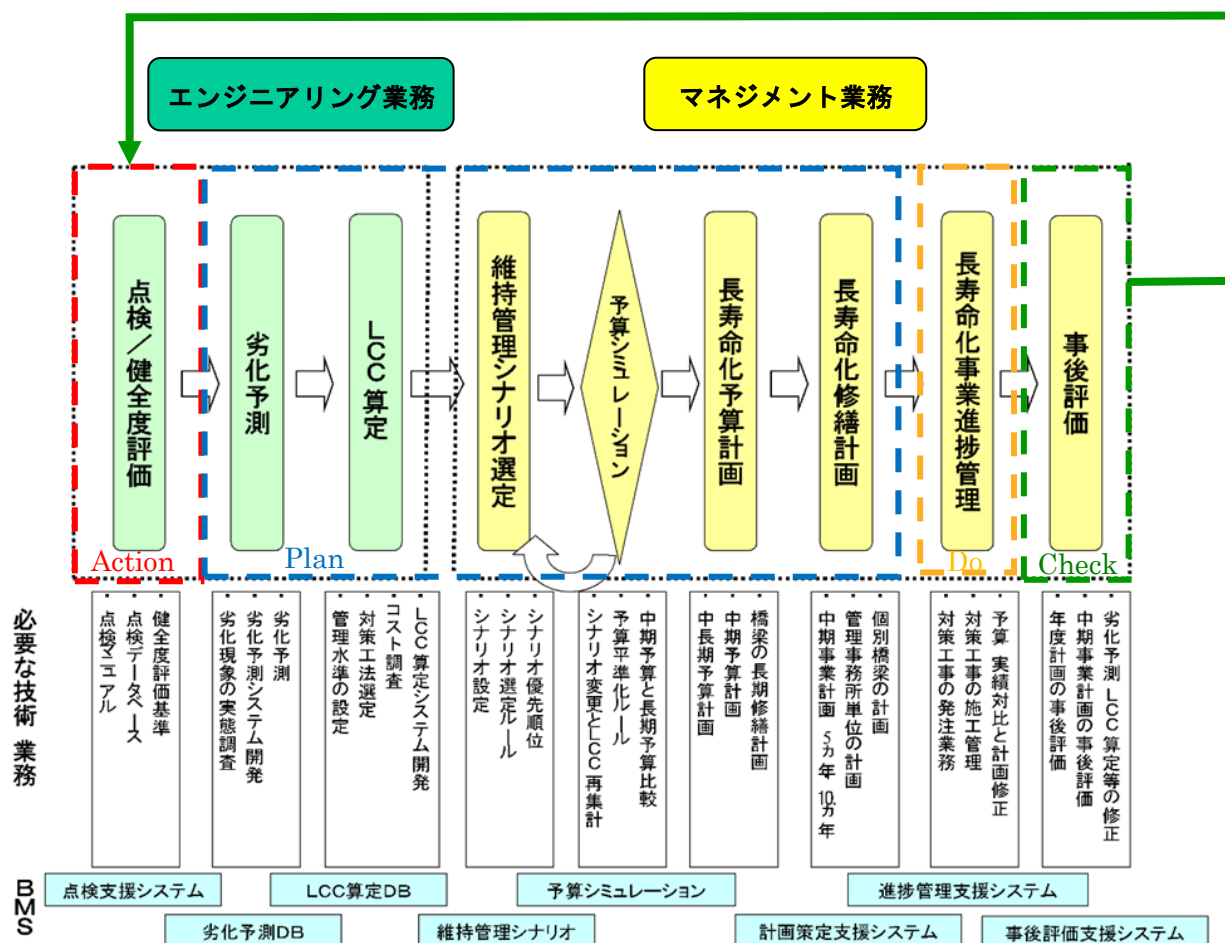
¹凍害：コンクリート中の水分が凍って膨張し、コンクリートを破壊させる劣化現象

²塩害：コンクリート中に塩分が浸透して鋼材を腐食させる劣化現象

4. 橋梁アセットマネジメントに基づく橋梁長寿命化修繕計画の基本フロー

橋梁長寿命化修繕計画は、図 4-1 に示す基本フローにしたがって策定します。

計画策定にあたっては、ブリッジマネジメントシステム（以下、BMS）を用いて、劣化予測、LCC算定や予算シミュレーション等の分析を行います。BMSは計画の作成支援に留まらず、事業進捗状況の管理を支援するとともに、点検・対策データなど事後評価のための情報を蓄積することによって、橋梁の維持管理におけるPDCAサイクルを回すことを考慮したシステムになっています。



出典「橋梁アセットマネジメント支援システム説明書」

図 4-1 橋梁長寿命化修繕計画の基本フロー

5. 橋梁長寿命化修繕計画の策定

5.1 橋梁の維持管理体系

橋梁の維持管理は、その業務内容から「点検・調査」と「維持管理・対策」に大別されます。

また、「点検・調査」から得られる情報を「維持管理・対策」に反映させる際に、劣化予測・LCC算定・予算シミュレーションなどの意思決定の支援を行なう**ブリッジマネジメントシステム（BMS）**と、「点検・調査」および「維持管理・対策」の各種情報を管理蓄積する**橋梁データベースシステム**という二つのITシステムがあります。

また、橋梁の維持管理は、「日常管理」、「計画管理」、「異常時管理」から構成されており、それぞれの管理において、「点検・調査」と「維持管理・対策」を体系的に実施します（図 5-1）。

維持管理体系におけるそれぞれの内容は以下のとおりです。

（１）【点検・調査】：橋梁の状態を把握し、

安全性能・使用性能・耐久性能といった主要な性能を評価するとともに、アセットマネジメントにおける意思決定に必要な情報を収集します。

（２）【維持管理・対策】：橋梁の諸性能を

維持または改善します。

（３）【日常管理】：交通安全性の確保、第

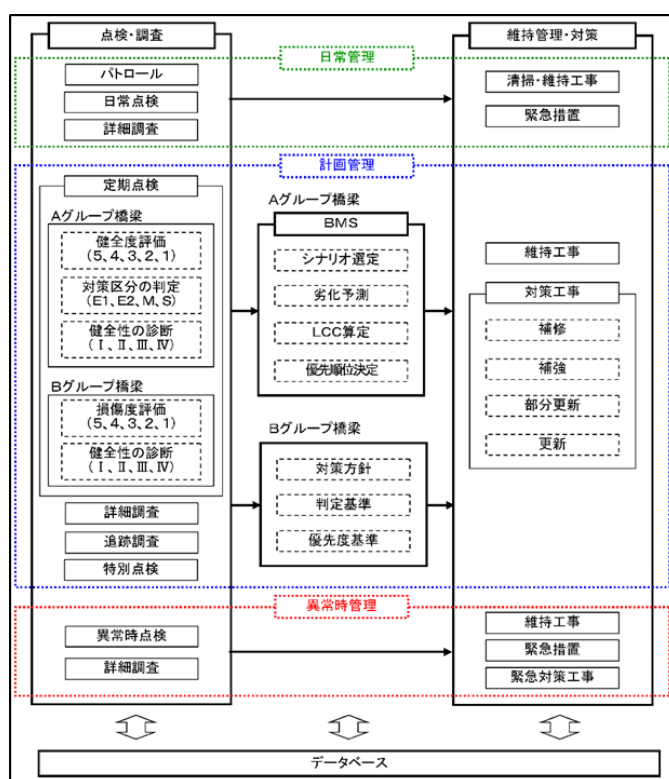
三者被害の防止、劣化・損傷を促進させる原因の早期除去および構造安全性の確保を目的として、パトロール、日常点検、清掃、維持工事等を実施します。

（４）【計画管理】：構造安全性の確保、交

通安全性の確保、第三者被害の防止、並びにBMSを活用した効率的かつ計画的な維持管理を行なうことを目的に、定期点検、各種点検・調査、対策工事などを実施します。

（５）【異常時管理】：地震、台風、大雨などの自然災害時、並びに事故等の発生時に、交通安全性の

確保、第三者被害の防止および構造安全性の確保を目的として、異常時点検、緊急措置、各種調査などを実施します。



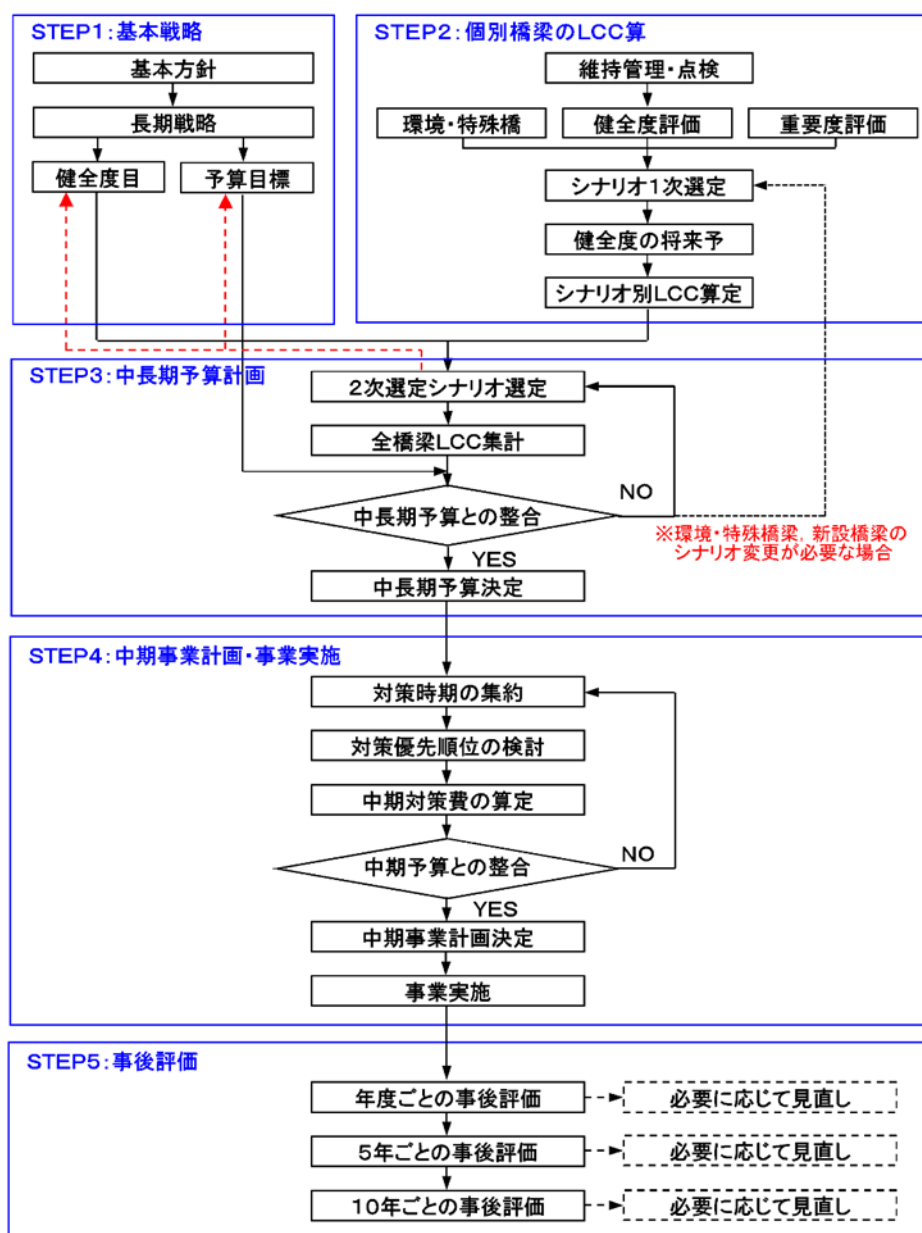
「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画 令和4年3月」より

図 5-1 維持管理体系

5.2 橋梁の維持管理

BMSにより劣化予測・LCC算定・予算シミュレーションを実施し、その結果に基づいて事業計画の策定を行います。BMSは大きく5つのSTEPで構成されています。

STEP1は橋梁の維持管理に関する全体戦略を構築します。STEP2は、環境条件、橋梁健全度、道路ネットワークの重要性等を考慮して、橋梁ごとに、維持管理シナリオに基づく維持管理戦略を立て、選定された維持管理シナリオに対応するLCCを算定します。STEP3は、全橋梁のLCCを集計し、予算シミュレーション機能によって予算制約に対応して維持管理シナリオを変更し、中長期予算計画を策定します。STEP4は補修・改修の中期事業計画を策定し事業を実施します。そして、STEP5で事後評価を行い、マネジメント計画全体の見直しを行います。



「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画 令和4年3月」より

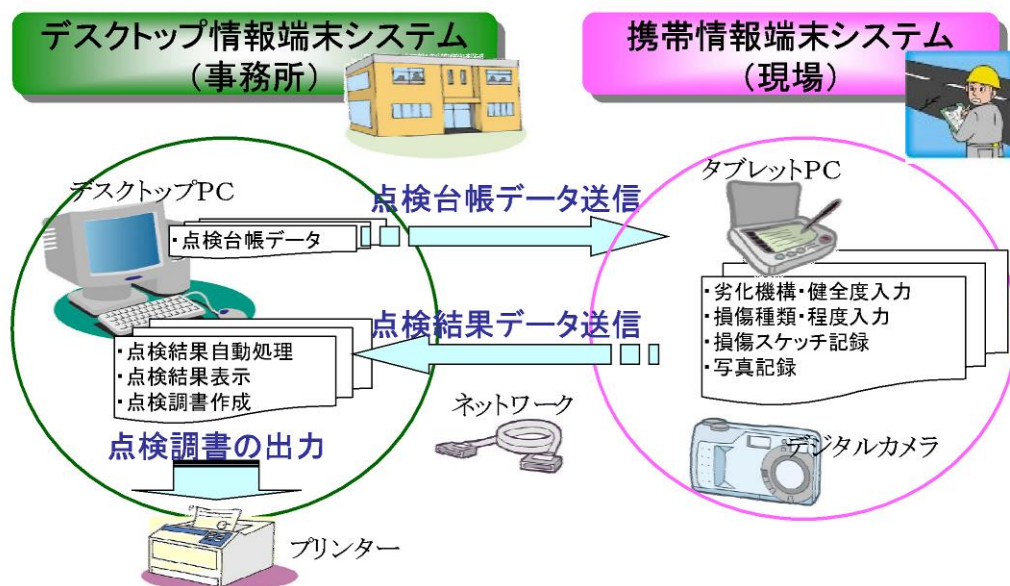
図5-2 BMSを用いたブリッジマネジメントのフロー

（１）維持管理・点検

青森県では、独自の橋梁点検マニュアルを策定し、定期点検を効率的に行うための【橋梁点検支援システム】を開発して、点検コストを大幅に削減しました。これに倣い田子町でも同様のシステム・手順により点検をおこないました。

● 橋梁点検支援システム

【橋梁点検支援システム】は、タブレットＰＣに点検に必要なデータを予めインストールし、点検現場において点検結果や損傷状況写真を直接ＰＣに登録していく仕組みとなっています。現場作業終了後は、自動的に点検結果を出力することが可能であり、これにより点検後の作業である写真整理や点検調書の作成が不要となり、大幅な省力化につながっています。



「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画 令和4年3月」より

図5－3 橋梁点検支援システム

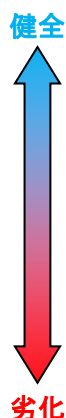
●健全度評価

橋梁の健全度は、潜伏期、進展期、加速期前期・後期、劣化期の5段階で評価します。

全部材・全劣化機構に共通の定義を表5-1に示します。

表5-1 全部材・全劣化機構に共通の健全度評価基準

健全度	全部材・全劣化機構に共通の定義
5 潜伏期	劣化現象が発生していないか、発生していたとしても表面に現れない段階
4 進展期	劣化現象が発生し始めた初期の段階。劣化現象によっては劣化の発生が表面に現れない場合がある。
3 加速期前期	劣化現象が加速度的に進行する段階の前半期。部材の耐荷力が低下し始めるが、安全性はまだ十分確保されている。
2 加速期後期	劣化現象が加速度的に進行する段階の後半期。部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている。
1 劣化期	劣化の進行が著しく、部材の耐荷力が著しく低下した段階。部材種類によっては安全性が損なわれている場合があり、緊急措置が必要。



また、部材・劣化機構ごとに評価基準を設定しています。評価基準は健全度の定義や標準的狀態、および参考写真とともに「点検ハンドブック（大阪地域計画研究所BMSコンソーシアム）」として取りまとめ、それらを点検現場に携帯することにより、点検者によって点検結果が異なることのないようにしています。

【1 鋼部材 防食機能劣化・腐食 塗装】

健全度	定義	標準的狀態
5:潜伏期 (5.5-4.5)	塗膜の防食機能が保たれている期間	変色や光沢の減少が局部的に見られる。
4:進展期 (4.5-3.5)	塗膜の防食機能が徐々に低下し、塗膜下で腐食が発生する期間	光沢の減少が進行し、上塗り塗膜の消失が局部的に見られる。 点蝕、塗膜のひび割れ、はがれが局部的に見られる。
3:加速期前 (3.5-2.5)	腐食が顕著になり、腐食量が加速度的に増大する期間	発錆面積が2割程度である。 局部的に断面欠損が見られる(エッジ部など)。
2:加速期後 (2.5-1.5)		全体的に錆が見られる。 板厚の減少が見られる。
1:劣化期 (1.5-0.5)	腐食による耐荷力(静的引張、座屈、疲労)の低下が顕著になる期間	全体的に板厚が減少しており、局部的には1/2以下になっている。

※)発錆面積2割程度:点蝕がかなり点在している状態をいう(鋼道路橋塗装便覧より)

(桁材等)



出典「橋梁点検ハンドブック(2)」

図5-4 健全度評価基準の例

(2) 維持管理シナリオ

橋梁アセットマネジメントにおいては、橋梁の置かれている状況（環境・道路ネットワーク上の重要性）や劣化・損傷の状況（橋梁健全度）に応じて、橋梁ごとに、適用可能な維持管理シナリオ候補を一つまたは複数選定します。

維持管理シナリオは、長寿命化シナリオと更新シナリオに大別され、長寿命化シナリオは以下の6種類を設定しています。

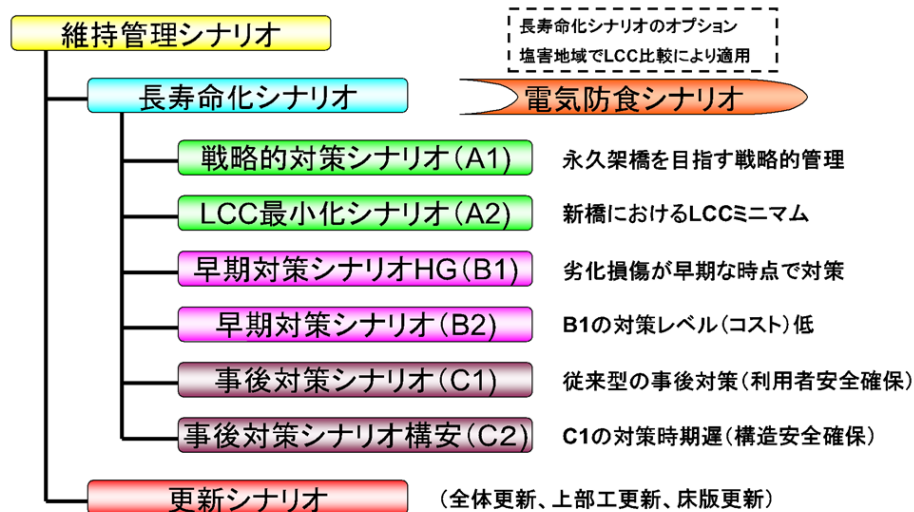


図5-5 維持管理シナリオ

出典「橋梁点検技術研修会」

●戦略的対策シナリオ(A1)

アーチやトラスなどの特殊橋梁、橋長200m以上の長大橋梁、塩害対策区分Sに該当する橋梁を対象に、戦略的な予防対策を行うシナリオ。例えば、鋼部材の定期的な塗装塗替など。

●LCC最小化シナリオ(A2)

新設橋梁の100年間の維持管理においてLCCが最小となるシナリオ。すべてのシナリオのLCCを比較してLCCが最も小さいシナリオを選択する。

●早期対策シナリオハイグレード型(B1)

劣化・損傷が顕在化し始める加速期前期の段階で早期的な対策を行うシナリオ。信頼性の高い対策工法を選択することで初期コストは大きくなるが、事後対策シナリオよりもLCCを抑制できる。例えば、鋼部材の塗装塗替において上位塗装に変更するなど。

●早期対策シナリオ(B2)

B1シナリオ同様、健全度3.0において早期的な対策を行うシナリオ。B1シナリオと比較して初期コストを抑制した廉価な対策を選択するが、事後対策シナリオよりもLCCを抑制できる。例えば、鋼部材の塗装塗替において同等塗装を行うなど。

●事後保全型シナリオ(C1)

劣化・損傷により利用者の安全性に影響が出始める前に、事後的な対策を行うシナリオ。例えば、鋼部材の当て板補強を伴う塗装塗替など。

●事後保全型シナリオ構造安全確保型(C2)

C1と同様の対策を行うが、構造安全性に影響が現れる前の、健全度1.5～1.0において対策を行う。

●電気防食シナリオ（オプション）

コンクリート橋の桁材に対して、劣化・損傷の進行を抑制することを目的に電気防食を行う。
その他の部材についてはA 1～C 2のいずれかのシナリオの対策を行う。

シナリオ候補の選定は、橋梁の健全度や架設されている環境条件、特殊性などを考慮して行います。図5－6にシナリオの選定フローを示します。

（３）更新対象の選定

主要部材の劣化・損傷が著しく進行している老朽橋梁や、日本海側に多く見られるような塩害の進行が著しい重度の橋梁は、高価な補修工事を繰り返すよりも架け替える方が経済的となる場合があります。これらの条件に当てはまる橋梁については、LCC評価と詳細調査によって更新した方がコスト的に有利と判断される場合は、更新型シナリオを選定します。

（４）長寿命化シナリオの絞り込み

仮橋の設置など架け替えが環境的・技術的に非常に困難な橋梁や、大河川や大峡谷に架設されていて架け替えに際して莫大な費用が発生する橋梁及びトラス橋・アーチ橋並びに塩害対策区分に位置する橋梁は、戦略的対策シナリオ（A 1）を選定します。

また、平成26年度（2014年）以降供用開始した新設橋梁については、LCC最小シナリオ（A 2）とし、それ以外の橋梁は、A 2及びB 1～C 2より適切なシナリオを選定します。

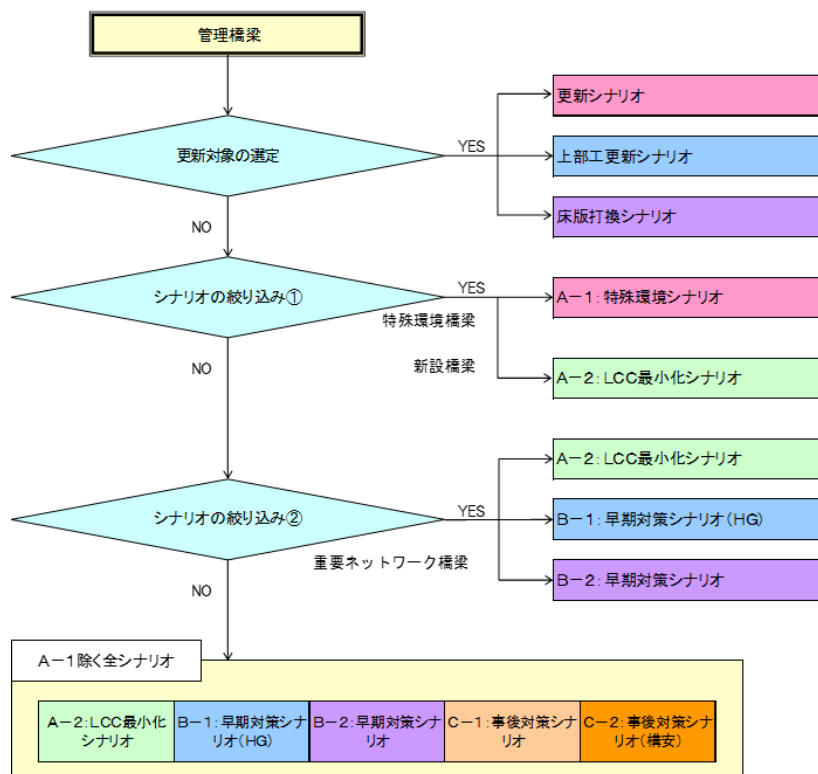


図5－6 維持管理シナリオ候補の選定フロー

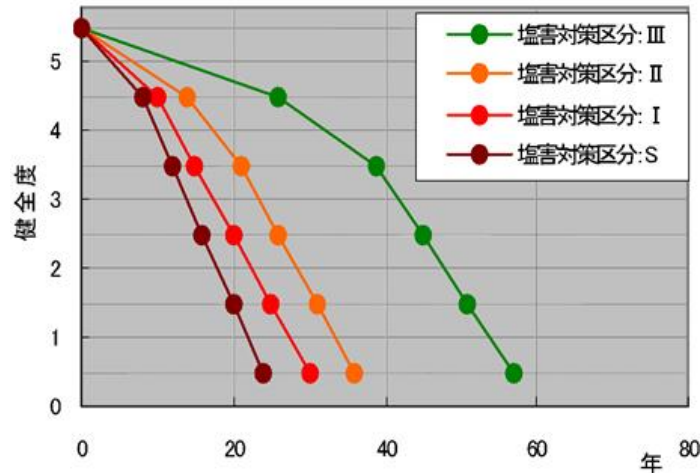
田子町では、上記条件を参考に橋梁のシナリオを選定しました。

（５）健全度の将来予測とＬＣＣ算定

●劣化予測式の設定

健全度の将来予測は、劣化速度を設定した劣化予測式を用いて行います。

劣化予測式は、青森県の点検データや過去の補修履歴、および既存の研究成果や学識経験者の知見などをもとに、部材、材質、劣化機構、仕様、環境条件ごとに設定されています。

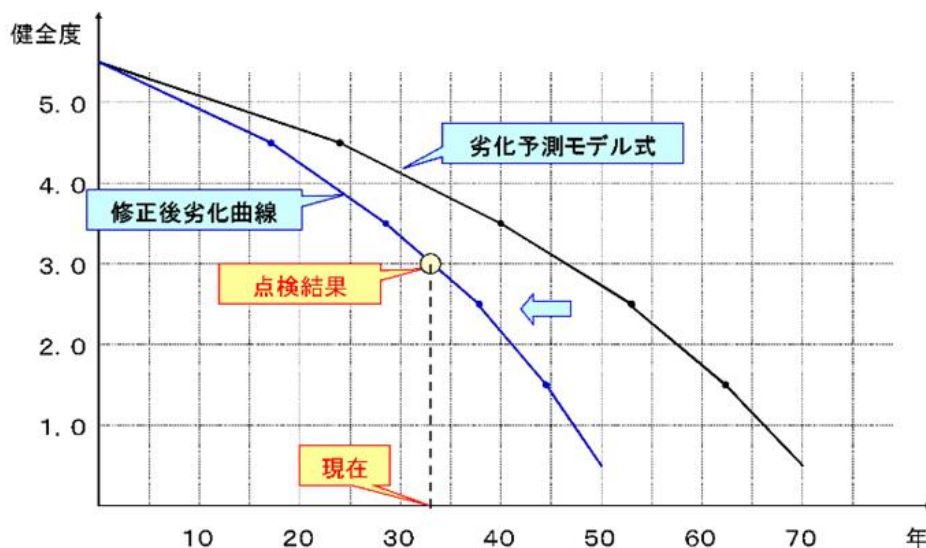


「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画 令和4年3月」より

図5－7 劣化予測式の例（塩害）

●劣化予測式の自動修正

数多くのデータをもとに劣化予測式を設定しても、実際の橋梁においてはローカルな環境条件や部材の品質の違いなどがあるために、劣化は劣化予測式どおりには進行しません。そこで、点検した部材要素ごとに、点検結果を通るように劣化予測式を自動修正します。これによって、点検した部材要素の劣化予測式は現実に非常に近いものとなり、ＬＣＣ算定精度を大幅に向上させることができます。

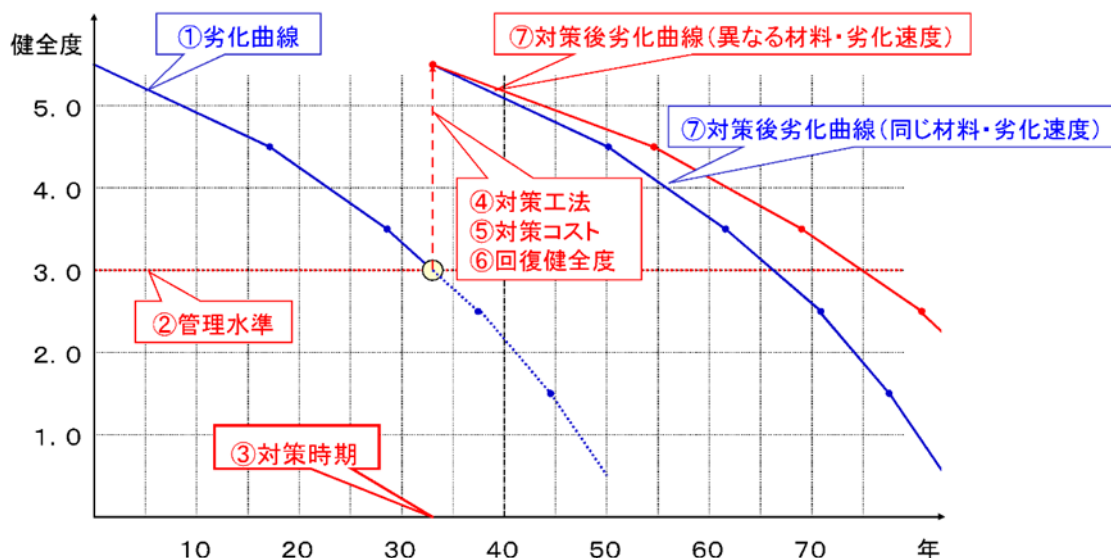


「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画 令和4年3月」より

図5－8 劣化予測式の自動修正

● LCCの算定

あらかじめ対策を実施する健全度（「管理水準」という）を設定し、対策の種類や対策コスト、回復健全度、対策後の劣化予測式等の情報を整備することによって、繰り返し補修のLCCを算定することができます。



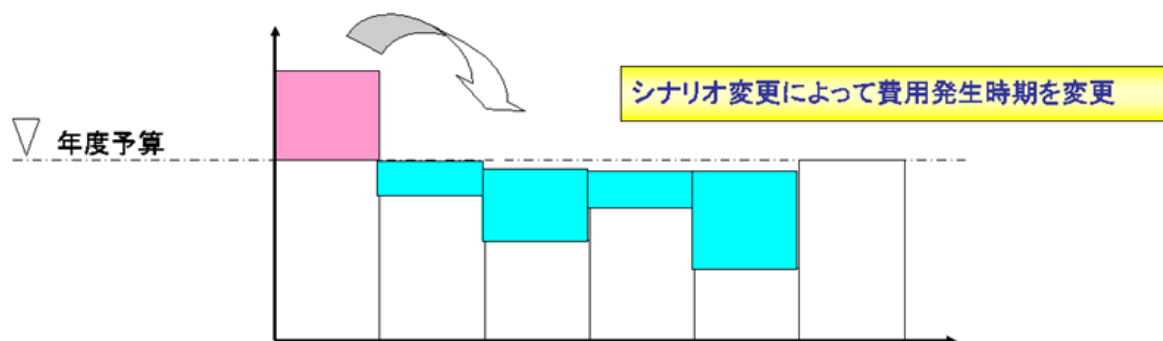
「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画 令和4年3月」より

図5-9 LCC算定

(6) 予算の平準化

●算定した全橋梁のLCCが年によって予算の目標値を超過する場合は、維持管理シナリオを変更し、対策時期を後の年度にシフトすることで、予算目標との調整を図ります。

●シナリオ変更の順序は、シナリオを変更することでLCCの増加の少ない橋梁から優先して行います。



「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画 令和4年3月」より

図5-10 平準化ルール

(7) シナリオ別LCC算定結果

●図5-11は、維持管理シナリオごとに全橋梁のLCCを集計したものです。

●個別の橋梁ごとに選定したシナリオの中で、最もコストのかかる場合のLCCは38.9億円、LCC最小となる維持管理をした場合は26.4億円となり、その差額は12.5億円となりました。

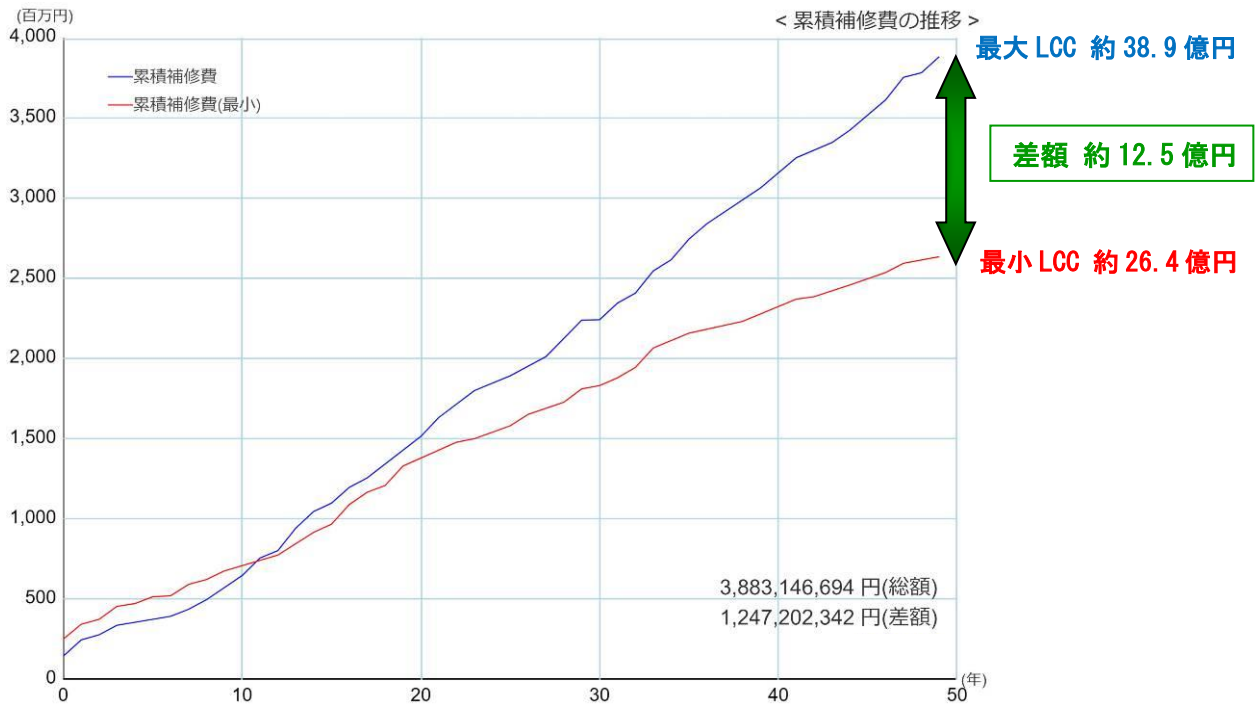


図5-11 全橋梁のLCC算定結果

(8) 予算シミュレーション

- 50年間LCCが最小となるシナリオを選択して、全橋梁の50年間LCCを集計した結果、毎年必要となる対策費の推移は図5-12のとおりとなりました。(LCC総額約26.4億円)

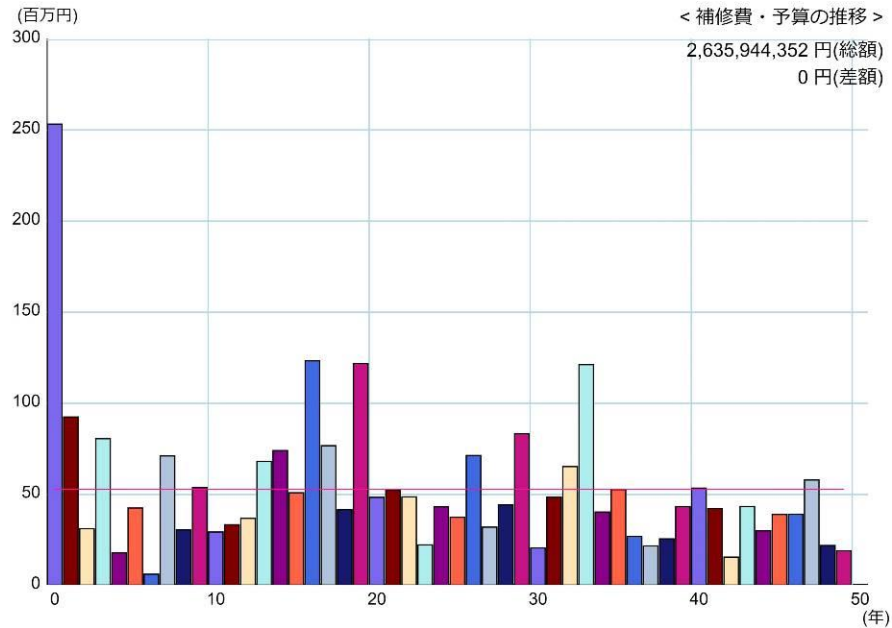


図5-12 50年間LCCが最小となるシナリオの組み合わせにおける補修費の推移

- 【田子町の補修費に対する予算制約】と【劣化予測に基づいて計算された対策実施年から3年以内に対策を実施すること】を予算平準化の条件として予算シミュレーションを実施した結果、図5-13に示すとおり、50年間LCCは約26.9億円となりました。

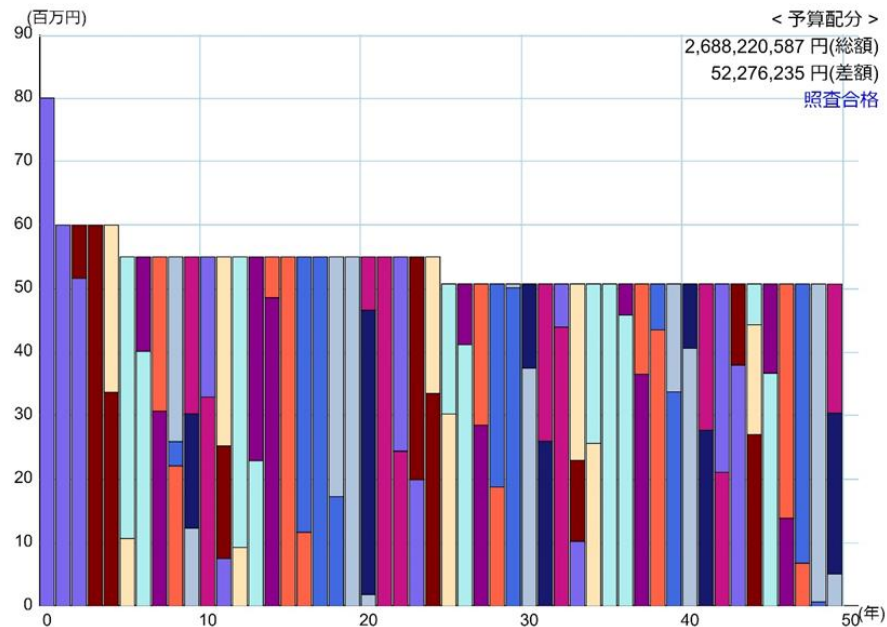


図5-13 予算制約を考慮した予算シミュレーション結果

- 予算シミュレーション（図５－１２、１３）前後で、シナリオ別橋梁数は表５－２に示すとおり変化しています。ＬＣＣが最小となるシナリオを選定した場合と比べ、初期の予算制約によりＡ２シナリオが減り、Ｂ２、Ｃ１、Ｃ２シナリオが増えました。

表５－２ 予算制約の考慮によるシナリオ別橋梁数の変化

シナリオ	平準化前橋梁数	平準化後橋梁数
A 2	46	29
B 1	25	25
B 2	7	16
C 1	0	7
C 2	0	1
計	78	78
総額	約26.4億円	約26.9億円

- 初期の予算制約を受けて、Ａ２シナリオからＢ１、Ｃ１、Ｃ２シナリオに変更されたため、５０年間の予算としては約０.５億円増加して総額約２６.９億円となりました。

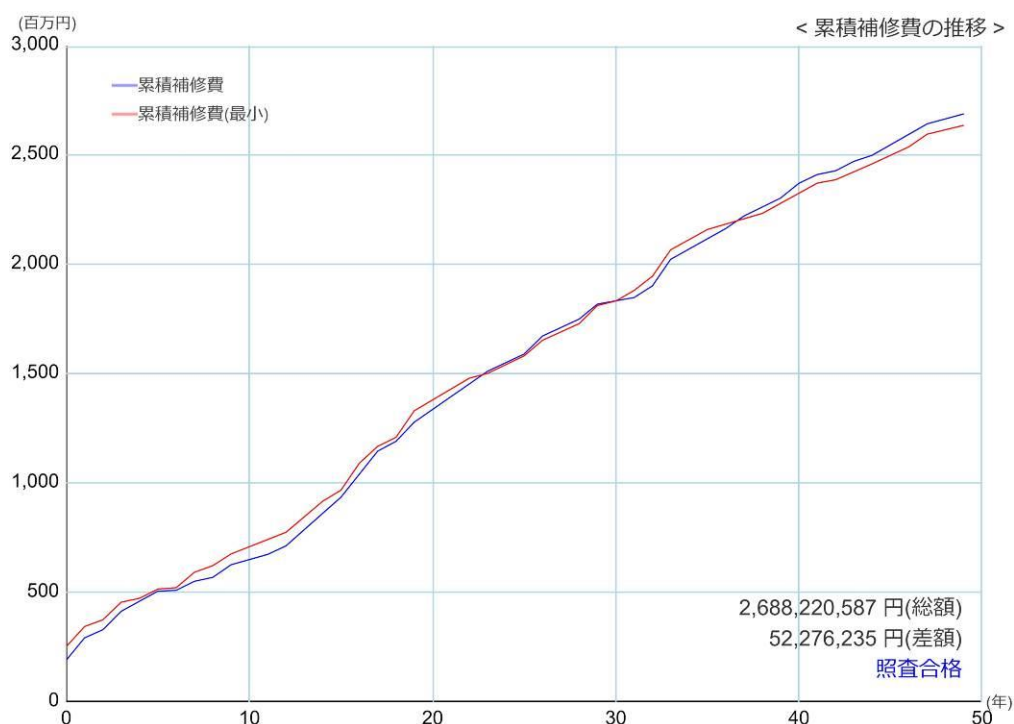


図５－１４ 予算シミュレーション前後の累計補修費の比較

(9) 長寿命化対策工事リスト

予算シミュレーションにより決定した各橋梁の維持管理シナリオに基づき、今後10年間に実施する長寿命化対策工事リストの概要を、表5-3に示します。

表5-3 長寿命化対策工事リストの概要

年度	橋梁名・事業内容
令和6年度	2号橋(新田・黒森線)：(架け替え工事)ほか
令和7年度	〃：〃 比良根橋：(上部工塗装、床版・下部工補修)ほか
令和8年度	大王橋：(上部工塗装、床版補修)ほか
令和9年度	遠瀬橋：(床版・下部工補修)ほか
令和10年度	1号橋(舞手橋)：(上部工・床版・下部工補修)ほか
令和11年度	1号橋(相内橋)：(上部工塗替、床版補修)ほか
令和12年度	花木橋：(上部工塗装、床版・下部工補修)ほか
令和13年度	境沢橋：(上部工塗装、床版・下部工補修)ほか
令和14年度	飯豊橋：(防護柵塗装、床版・下部工補修)ほか
令和15年度	梨ノ木橋：(床版・下部工補修、防護柵再塗装)ほか

6. 橋梁長寿命化修繕計画により見込まれるコスト削減効果

計画的更新橋梁と長寿命化橋梁を区分し、予防保全型維持管理を中心とした効率的な修繕計画を継続的に実施することにより、50年間で約12.0億円のコスト削減が可能であると試算されました。

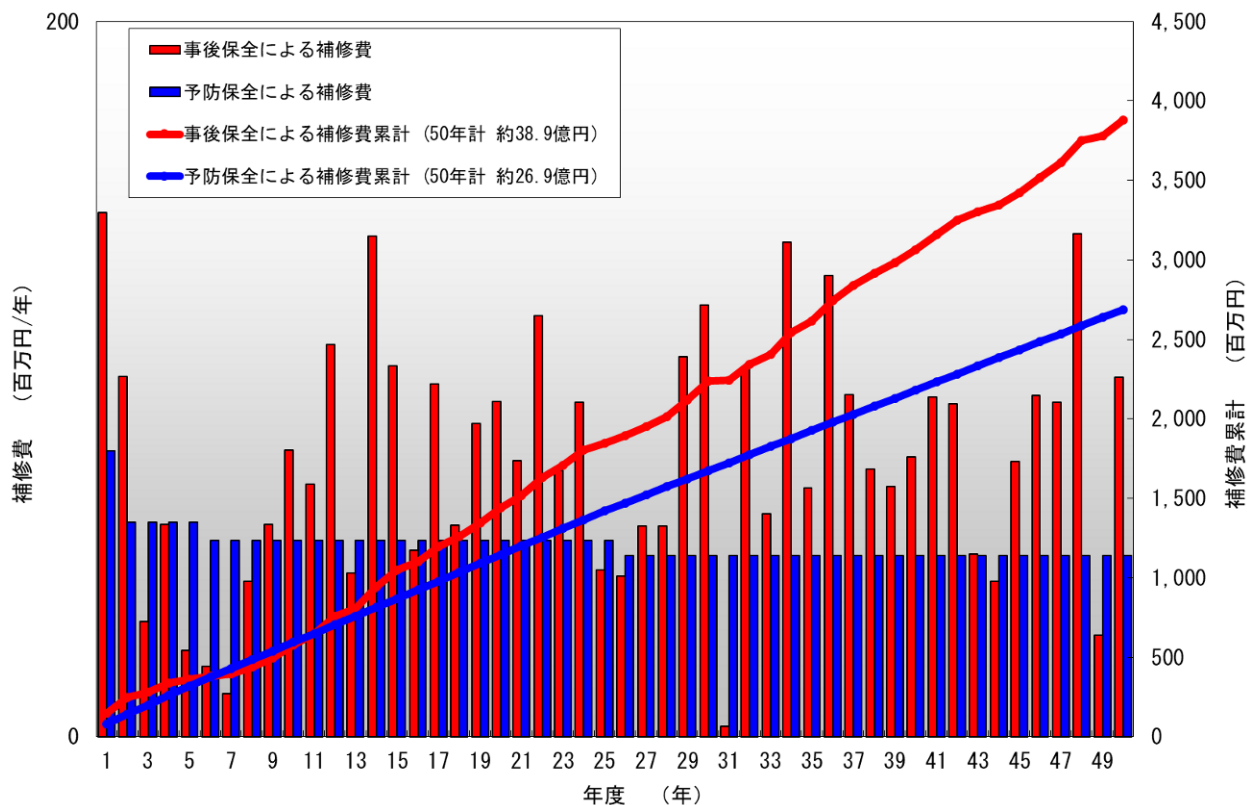
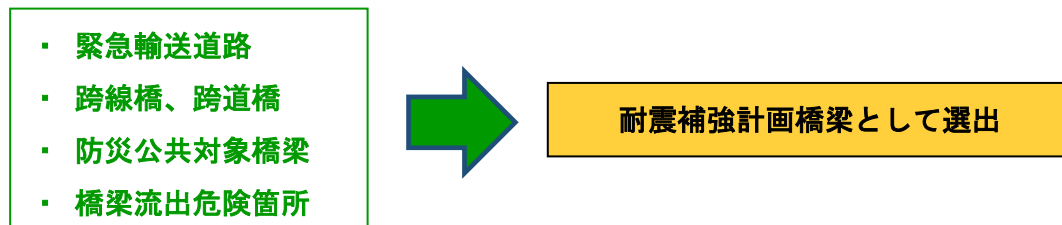


図6－1 橋梁のコスト削減効果

7. 耐震補強計画

優先的に耐震補強を実施する橋梁は、平成8年より前の道路橋示方書を適用し、耐震補強が未実施かつ下記のいずれかに該当する橋梁を耐震補強の必要な橋梁とする。



今後、青森県に倣い、田子町においても対象となる橋梁について、耐震補強設計を実施することを目指していく。

8. 洗堀対策計画

優先的に洗堀対策を実施する橋梁は、鉄道橋による手引きや最近の洗堀に関する知見等により、以下に示すような項目に該当する洗堀被害リスクの高い橋梁について、選定を行った上で洗堀対策を実施することを目指していく。

- ・ 最小径間長、河積阻害率が河川構造令を満たさない。
- ・ 橋台、橋脚の基礎の安定性が低い。
- ・ パイルベント、ピアアバット、翼壁の無いラーメン構造を有する。
- ・ 河川改修により橋台前後の川幅が縮小されている。
- ・ 河床勾配が急である。
- ・ 水衝部に位置する。
- ・ 滯筋の変化が見られる。
- ・ 洗堀が見られる。 等

9. 費用の縮減に関する今後の取組

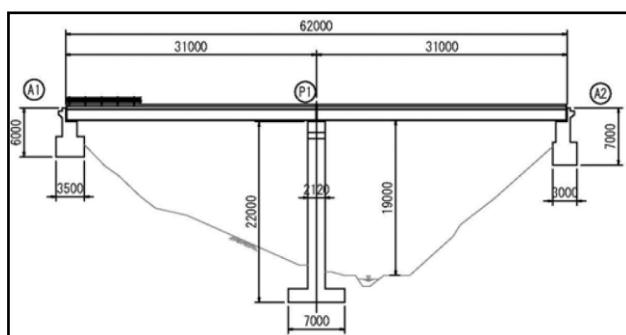
9.1 新技術の活用

国土交通省の「点検支援技術性能カタログ」で活用可能な新技術を整理し、検討を行いました。対象は、下部工（橋脚）の高さが15m以上の橋梁※¹です。交通誘導員を必要とする橋梁点検車やゴンドラ車を使う従来の点検方法と、交通誘導員を必要としないドローンを使う点検方法の比較を実施しました。

次回点検（3巡目点検）を予定している令和6年度に点検支援技術性能カタログ記載の「360度周囲を認識するドローンを用いた橋梁点検支援技術（Skydio）」※²を活用し、安全性の向上、約5割のコスト縮減を目指します。

※1：対象橋梁：1橋

※2：対象範囲：桁下、橋台、橋脚



9.2 集約化・撤去の検討

田子町が管理する橋梁は、84橋と多く、橋梁の老朽化により、修繕費と更新費の増大が懸念されます。そのため、今回の点検結果から、橋梁の利用状況の変化や周辺の道路の整備状況、点検・修繕・更新に掛かる中期的な費用を考慮し、橋梁の撤去※¹を行い、610万円のコスト縮減を目指します。

※1 対象橋梁：利用者がいないと推定される橋梁を選定



10. 事後評価

計画的維持管理のレベルアップを目的として、定期的に事後評価を行い、必要に応じて計画の見直しを行います。

5年ごとに実施する定期点検データを分析し、劣化予測データベースやＬＣＣ算定データベースの見直しを行うとともに、中期事業計画の見直しを行います。

また、10年ごとに事業実施結果を評価して、政策目標や維持管理方針の見直しを行うとともに、中長期事業計画の見直しを行います。

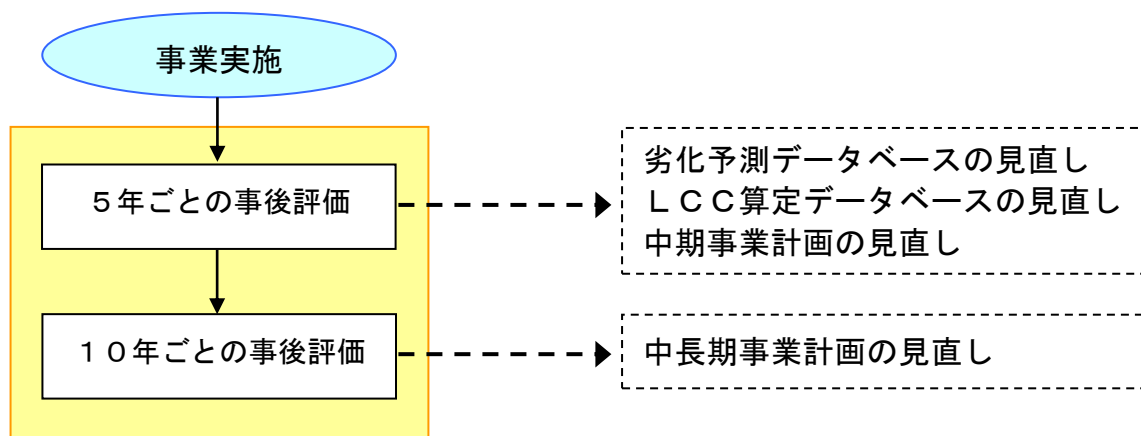


図10-1 事後評価

1 1. 橋梁長寿命化修繕計画策定に係る学識経験者の意見聴取

本計画は学識経験者等の専門知識を有する方の意見を踏まえて策定しました。

【学識経験者】 阿波 稔 八戸工業大学 工学部 土木建築工学科 教授

【計画策定担当】 田子町 建設課

【意見聴取実施状況】

